

このコーナーでは、海外で日本語を教えるときに、教師が直面すると思われる問題をとりあげ、質問に答える形で、読者のみなさんの参考になる情報を提供していきます。

**Q** 日本語の弁論大会にそなえて、スピーチの指導法を教えてください。また、授業にもスピーチを取り入れることができますか。その時の評価はどうすればよいでしょうか。

**A** スピーチというと、とてもむずかしいことのように考えていませんか。テーマややり方を工夫すれば、1分間スピーチや2分間スピーチなど、スピーチは初級でも無理なく授業に取り入れることができます。スピーチの指導では、「読む、聞く、書く」の他の技能とも関連づけて、スピーチをするまでの過程を大切にしてください。スピーチは「作って暗記して正しく言う」活動ではありません。評価では、「聞き手にわかりやすく、効果的に話すことができたかどうか」という点から、内容と発表方法の両方をみるようにしてください。

### スピーチの効能

こうのう

話す活動には、相手との言葉のやりとりを主とする対話形式のものと、多数の人を前にして行う報告やスピーチのような独話形式のものがあります。口頭表現力をつけるためには、この両方の形式の練習を行う必要があります。

人前で、1人でまとまりのあることを話すスピーチのような活動は、母語でやっても緊張するものです。しながら、事前に話す内容を準備し話し方の練習ができるので、会話のような対話型のコミュニケーションが苦手な人でも大丈夫です。

授業では、学習者が自分の体験や意見をみんなに伝えられるという達成感を持つことが大切です。

### スピーチの種類

しゅるい

スピーチというと、弁論大会(スピーチ・コンテスト)を連想しがちですが、次のような種類があります。

- ① 情報提供、方法説明のスピーチ
- ② 意見表明、提言のスピーチ
- ③ 社交目的のスピーチ：お祝い・歓迎・感謝のスピーチ

『日本語口頭発表と討論の技術』による

このうち授業に取り入れるのは、主に①と②です。

### 学習者のレベルに合わせたテーマの選び方

がくしゅうしゃ あ えら かつ

授業では、学習者の日本語のレベルや興味に合ったテーマを選んでください。弁論大会でもむずかしすぎるテーマは禁物です。

#### (1) 初級のテーマ

身近なテーマについて自分の経験を語るものが主に

ります。また、思い出の品などの実物や写真を見せながら、そのものについて話させる方法(「show and tell」)は、話し手にとっても話しやすく、聞き手にとってもわかりやすく楽しいものです。



#### (2) 初級後半から中級のテーマ

文型や語彙が増えてくるので、なにかについての説明や紹介のスピーチをすることができます。その際、自分の経験だけではなく、本や雑誌で調べたり(読む)人にインタビューしたり(聞く)した結果をスピーチという形で表現させることも大切です。

#### (3) 上級のテーマ

(2)の説明や紹介のスピーチに加えて、ある問題について自分の意見を主張し、聞き手を説得するスピーチを取り入れます。この場合、具体的な事例(スピーチの材料)が浮かびやすいテーマを選ぶのがよいと思います。成人学習者の場合、職業や専門分野と関連づけて、仕事でのプレゼンテーションや研究発表の仕方を練習させることも必要でしょう。

### スピーチのテーマ(例)

初級	家族紹介、わたしの趣味、わたしの宝物、いちばん楽しい週末のできごと、わたしの夢の住まい(空想)
中級	私の得意料理紹介、世界一の観光地、ボランティアの仕事いろいろ、環境を守るひとつの方法
上級	外国人にもすみよい社会を作る、教育問題を解決する

## スピーチの指導法

主に初中級レベルでスピーチを授業で取り入れる場合の指導法を紹介します。

### (1) テーマ・内容の導入

「スピーチをつくる」ことは個人作業ですが、その前に、テーマや話したい内容について学習者同士で話し合います。自分が何を伝えたいか、聞き手は何について興味を持っているかなどが明らかになるからです。これは、スピーチに不慣れな学習者の場合、とくに重要です。

#### スピーチの導入方法 (1) キーワード

- ① 教師がテーマ（例：わたしの宝物）を出す。
- ② 学習者は、テーマについて自分の頭に浮かんだ言葉（キーワード）をメモする（母語でもよい）。
- ③ ペアになって、メモを見せ合って、その言葉について説明する。お互いに質問する。

#### スピーチの導入方法 (2) インタビュー

\* ペアになって、インタビューしてください。

（例：わたしの宝物）

- ① あなたの宝物はなんですか。
- ② それはどこで買いましたか。または、だれにもらいましたか。
- ③ なぜ、宝物なのですか。

### (2) スピーチの原稿やメモを書かせる

スピーチで伝えたい内容が明らかになってきたら、それを書いてまとめさせます。このとき、必要な語彙や文型を確認しますが、初級の場合は、モデル文を提示してもよいです（市販教材1にいろいろなモデル文あり）。中級の場合は、全体構成に注意させることが重要です（市販教材2に詳しい説明あり）。

### (3) 教師が原稿の日本語を直す

いちばん重要なことは、内容がはっきり伝わる構成になっているかどうかです。語彙や文法の誤りや適切でない表現については、学習者のレベルに合わせて直します。

### (4) 原稿やメモを見ながら、話す練習をさせる

つかえずに言えるようになるまで、声を出して練習させます。上手に言えないところがあれば、原稿を変えることも必要です。

また、話し方だけではなく、視線や身振りなどが効果的か、実物や写真を提示する場合は相手にとって見やすいかも重要なポイントです。そのためには、鏡の前で練習させてみることです。

この機会に、ぜひ授業でスピーチにチャレンジしてみてください。

このコーナーの担当者：藤長かおる（Kaoru\_Fujinaga@jpf.go.jp 日本語国際センター専任講師）

### (5) 実際にクラスでスピーチをさせる

スピーチは作文の朗読とはちがいます。聞き手の方をしっかりと見て話すことが大切です。ただし、無理に話す内容を暗記させる必要はありません。話す順序やキーワードを書いたメモを用意させるとよいです。

### (6) 聞き手に質問させる

スピーチのあとで、聞き手である他の学習者に感想を言わせたり、内容について質問させたりします。質疑応答の時間があることによって、聞き手は積極的にスピーチを聞きこうとしますし、話し手は自分のスピーチの内容をよく理解していることが必要です。なお、初級のうちは、母語で行ってもかまいません。

## スピーチの評価

いいスピーチとは、聞き手にとってわかりやすく、伝えたいことが効果的に伝わるスピーチです。これをチェックするいちばんよい方法は、上述の(6)のように、聞き手の反応を確かめることです。

教師が評価する場合は、内容と発表方法の両面から、どの点がよくでき、どの点を改善すればよいかを学習者に伝えるとよいでしょう。

### 1. 内容

- テーマと内容の一致
- 導入部分の効果
- 説明、事実部分の明確さ
- 説得力（意見表面のスピーチ）
- まとめの適切さ

### 2. 発表方法

- 文法的正確さ
- 話す速度、声の大きさ、発音・アクセントの聞きやすさ
- 姿勢、視線、表情、身振り
- 視覚的提示手段：実物、写真、OHPなどの利用法

評価を学習者同士で行わせると、よいスピーチとはなにかを考えさせる機会になります。可能なら、スピーチをビデオで撮って自己評価させてみるのもよい方法です。

## 市販教材

1. 鶴沢 梢（1998）『日本語 作文とスピーチのレッスン ~初級から中級へ~』アルク
2. 東海大学留学生教育センター 口頭発表教材研究会（1995）『日本語口頭発表と討論の技術』東海大学出版会